

九条北小学校 校長室だより

NO.78 令和3年1月25日



今週は、九条北小学校の「給食週間」です。児童朝会では、「給食週間」についてお話ししました。

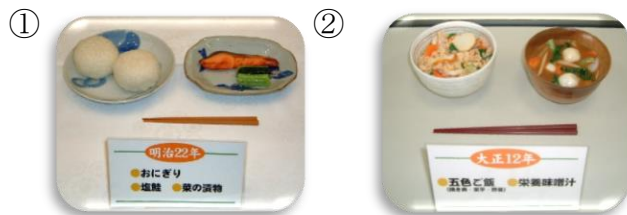
★「給食週間のお話」★

1月24日～1月30日は、「全国学校給食週間」といいます。この期間の前後に、各学校で「給食週間」を決めることになっています。**九条北小学校の今年の「給食週間」は、今日1月25日(月)～29日(金)です。**

先日、給食委員会のお昼の放送で、大阪市の学校給食のはじまりについて紹介してきていましたが、覚えていますか？

まずは、「**学校給食**」の始まりと言われているのは、明治22年(1889年)、今から132年前、**山形県の現在は鶴岡市**というところの小学校で、お弁当を持ってこられない子どもがたくさんいたので、小学校を建てたお坊さんが、「**おにぎり・焼き魚・漬物**」といった昼食を出してくれたのが最初です。みんな、大喜びで食べていたそうです。〈写真1〉

大正12年(1923年)の給食です。給食というより、家庭でのお昼ごはんといった感じですね。〈写真2〉



戦争が始まり、食べるものが不足するようになり、給食も続けられないところが多くなったそうです。「**すいとん**」とは、お米の代わりに水で溶いた粉で団子のようなものをつくり、汁に入れたものです。〈写真3〉

昭和20年(1945年)に戦争は終わりましたが、食糧不足は続いており、その頃の小学6年生の子どもの体は、今の4年生の子どもの体と同じくらいとされています。〈写真4〉

昭和22年(1947年)、全国の児童約300万人に対し学校給食がはじまりました。アメリカから無償で与えられた**脱脂粉乳**が使われ始めました。容器は「**アルマイト**」という材質のものでした。

昭和24年(1949年)、ユニセフから材料をもらい、大阪市の3つの小学校で給食がはじまりました。

翌年には、全小学校で給食がはじまりました。

この頃、容器が変わり、今の給食容器に近いですね。そして、脱脂粉乳から**牛乳**に変わりました。当時のパンと言えば「**コッペパン**」でした。〈写真5〉



そこから給食の歴史は続き、今の給食は、食材もいろいろあり、献立も増えていますね。ご飯の日もあるし、なによりパンがおいしくなりました。先生になって給食を食べた時に感じたのが「パンがおいしい!」でした。

給食週間のこの機会に、おいしい給食を食べることができることを感謝し、心を込めて「いただきます」をしましょう。